## 防火・防災ニュース No.1103

平成23年7月2日 緑園6丁目自治会 防火防災部

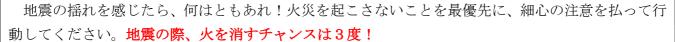
火災が、とても恐ろしいものだということは、皆さん良くご存知だと思います。死者や怪我人が出たり、財産が失われる。特に、地震発生時の火災は、被災者の命を奪う大きな原因となっています。今回は、『地震と火災』について考えたいと思います。

## 【避難、消火、救助、全ての行動が困難に...】

地震発生時には、炎や煙から避難することが非常に困 難となってしまう可能性があります。

- ・倒壊した家屋や家具の下敷きになり、身動きが取れない。
- ・落下物等によりケガを負ってしまい、身動きが取れない。
- ・扉が開かない等、避難ルートの確保ができない。

水道管の破損等によって、全く出ないかもしれません。また消防隊・救急隊の到着を期待することができません。(でも 119 番通報はしてみましょう。)



- 1. 大きな揺れが来る前の小さな揺れのとき
- 2. 大きな揺れが収まったとき
- 3. 残念ながら出火してしまっても、出火後1~2分の間(初期消火のタイミング)

**それでもダメだったら**、大声を出したり、ヤカンをガンガン叩くなどして大きな音を出し、ご近所の人たちに協力を求め、一致団結して消し止めるほかありません。 日頃からのご近

所付き合いが大事ですね。地震が原因で発生した火災による損害については、「**地震保険**」にも加入していなければ、「火災保険」に加入していたとしても、保険料はおりません。

## 【電気の復旧が原因でおこる火災】

大地震が発生。電力線の断絶等により電気の供給が止まり、数時間から数日後、電力会社の努力等により電気の供給が復旧する。このときに起こってしまう火災が「通電火災」。この火災は大地震が発生してから、数時間から数日後に起こるものだそうです。

発生したケースとして、次のようなものがあります。

- ・倒れていた電気ストーブに通電して発火
- ・倒れていた照明器具が発熱して散乱した紙などに引火
- ・ガス管が破損し、ガスが噴出していたところに通電し火花が散って引火
- ・家屋が崩れ、壊れたコンセントやむき出しになった電線から火花が散って引火
- ・壊れた水槽の熱帯魚飼育用ヒーターが発熱して引火

**阪神・淡路大震災**における、原因が判明している火災のなんと **6 割が、「通電火災」だった**とも言われています。



通電火災」を防ぐ方法は、電気ブレーカーを落とすことです。 大地震による停電が起こった時には、必ず電気ブレーカーを 落とす。・避難所等に避難する場合は、家を出る前に必ず電気 ブレーカーを落とす。

……これを忘れないで下さい!!

